

事業の名称	「京都・丹波あゆ街道」からはじまるウェルネスプログラム創造推進事業
名称	一般社団法人 森の京都地域振興社(森の京都DMO)
団体の活動状況	<p>【事業内容】・マーケティング調査等による顧客拡大 ・地域開発推進 ・地域の食を活用した観光地域づくり</p> <p>・認知度向上に向けた取組 ・中長期滞在者等受入体制・環境の整備 ・アクセス強化、二次交通誘客事業</p> <p>【事業例】 観光庁事業での取組「なぜ、京都には山城が多く存在するのか？～城郭専門家と紐解く22の山城の謎」 「CROSS X 綾部「黒谷和紙の秘境」で実体験する和紙職人としての暮らしビティ」 「TANTANアルベルゴ・ディフィーゾ」ウェルネスツーリズム 2泊3日の森林浴プログラム 「京都亀岡の里山での特別な日本文化体験 ～プライベート楽焼作陶・薪能～」 京都府南丹広域振興局との取組「京都丹波ウェルネス観光ツーリズム事業」 その他「ワーケーション推進事業」「地域文化を活用した地域活性化プロジェクト」 「ジャパンガーデンツーリズム(庭園間交流連携促進計画登録)」教育体験旅行受入(17校)</p>
プランの骨子	<p>京都縦貫自動車道の沿線は、清流にのみ生息する鮎が泳ぐ等、手つかずの自然が魅力。日本のふるさとを彷彿させるこの「森の京都」エリアで、スローライフや自然を満喫しながら滞在いただけるよう、川や自然、里山を活用したツーリズムを創造したい。</p> <p>京都縦貫自動車道で繋がる「鮎が住める清流地域」をイメージブランディングするため、「京都・丹波あゆ街道」とネーミングし、日本のふるさとで心身ともにリフレッシュできる滞在環境を整える。R8年に開催される「緑化フェア in 京都丹波」のテーマやプログラム、また地域行政や観光団体が積極的に取り組む「環境」プロジェクトとも連携を図り、「京都・丹波あゆ街道」プログラムは、自然と共生するウェルネス観光圏を目指す。</p> <p>【1】実行計画策定：自然・里山アクティビティや鮎やジビエの食体験、空間等、体験価値情報収集と計画 ・「釣りや自然好き」「旅好き」「ファミリー」「都会ワーカー」等、日本のふるさとでの滞在価値観を持つ層に対するアクティビティや食文化体験のニーズ調査 ・「観光インフラ環境」「おもてなし性やインストラクター・ガイド等の環境」「観光マネジメント状況」等の地域現状調査 ・「釣りや自然アクティビティ」、「周辺宿泊施設」、「地域食材の飲食店や空間」、「地域に根付く文化」等の地域観光環境調査 ・調査・分析から見出す森の京都地域「京都・丹波あゆ街道」ブランド創造へのアクションプラン策定</p> <p>【2】「京都・丹波あゆ街道」と「緑化フェア」を連動したブランディング：体験価値の創造と発信 ・「自然・釣り等のアクティビティ」「あゆやジビエ料理店や自然と調和した食空間」「宿、観光施設等」「地域の暮らし・文化・産業体験や交流」等、既存コンテンツの集約や新たな造成、発信媒体(HP等)の一元管理(DX化) ・「緑化フェア in 京都丹波」のフェアスポット巡りと「京都・丹波あゆ街道」プログラム、「SA、道の駅」で利用できるサービスクーポン等を連動した施策の展開 ・SA、道の駅を活用し、「京都・丹波あゆ街道」プログラムや緑化フェアの「環境」「食農」「芸術」の体験型PR(タビナカ発信)</p> <p>【3】プログラム拡充とSDG'sの取組：自然満喫体験からライフスタイル体験へ、自然との共生の啓蒙へ ・「京都・丹波あゆ街道」プログラム×「緑化フェア」レガシーによる「森の京都のライフスタイル」として「ウェルネス観光圏」を目指し、プログラム・施策を拡充 ・プログラム拡充に伴い、関連する様々な産業からの事業者・住民の参画促進を行い、連携体制、おもてなし・サービスを強化 ・環境先進都市を推進する亀岡や、保津川の水環境活動等と連携した、「環境」×「観光」の具体的なプログラム開発</p>

事業活動地域(地図等で具体的に表示)



■1年目 現状分析・計画

- ・市場ニーズ、ターゲット別ニーズ調査・分析
- ・鮎漁場の受入、及びアクティビティ、宿・食施設の観光魅力調査、改善点抽出
- ・訪問滞在価値を向上させるアクションプランの策定



■2年目 ブランディング・価値創造

- ・顧客が求めるツーリズムに必要な体験と発信媒体の一元化
- ・ターゲット別アクティビティ開発、販売
- ・カスタマージャーニーに即したサービス・施策開発、販売
- ・SA、道の駅等と連携した実演、展示等、体験性のあるPR手法開発
- ・緑化フェア in 京都丹波のテーマ・訪問を付加したプログラムの開発



■3年目 ライフスタイルをベースとした持続可能なプログラムへ

- ・「京都・丹波あゆ街道」プログラム×「緑化フェア」レガシー×「森の京都のライフスタイル」をベースとした滞在プログラム開発、販売着手
- ・プロジェクトへの参画・連携事業者の拡大、体制・サービス強化
- ・推進中の地域環境活動との連携、一体化

